

ESRIジャパン データコンテンツ

ArcGIS® Geo Suite

地形
2026



クイックスタートガイド

更新履歴

版数	更新日付	更新内容
1.0	2025/12/01	新規作成

目次

1. 本ドキュメントについて	3
1.1. 概要	3
1.2. 動作環境.....	3
1.3. 変換パラメーターの適用が必要な場合（Pro 3.5 以前の動作環境）	3
2. セットアップ方法	4
2.1. データをコピーする.....	4
3. ご利用方法	4
3.1. レイヤー ファイル (.lyrx) を使用する	4
3.2. DEM データを標高サーフェスに設定する	6

1. 本ドキュメントについて

1.1. 概要

このたびは ESRI ジャパン データコンテンツをご購入いただき、ありがとうございます。

本クイックスタートガイド (以下、「本ドキュメント」という) では、ESRI ジャパン製データ製品「ESRI ジャパン データコンテンツ ArcGIS Geo Suite 地形 2026」(以下、「本製品」という) について、米国 Esri 社のソフトウェア製品「ArcGIS Desktop」で利用する方法をご紹介します。

本製品の使用規定は別紙に添付しておりますので、ご利用前に必ずお読みください。また、ご利用条件の詳細を ESRI ジャパン Web サイトの FAQ ページに記載しております。

<https://www.esri.com/products/data-content-geosuite-chikei/faq/>

データの詳細については、収録されているデータ基本仕様書をご参照ください。

1.2. 動作環境

- ArcGIS Pro 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6
- ArcMap 10.8 / 10.8.1 / 10.8.2

最新の動作環境については、下記の Web ページをご覧ください。

<https://www.esri.com/products/data-content-geosuite-chikei/specifications/>

本製品の推奨環境は、日本測地系 2024 (JGD2024) が投影法として搭載されている **ArcGIS Pro 3.6** です。

ArcGIS のリアルタイム投影機能により、画面上で任意の投影座標系に投影してご利用いただけます。

それ以外の環境ではご利用になるマップの投影法によってはリアルタイム投影機能を利用するための設定が必要になる場合がありますが、データの表示、解析ツールの実行などは可能です。

1.3. 変換パラメーターの適用が必要な場合 (Pro 3.5 以前の動作環境)

2025 年 4 月に公表された JGD2024 が搭載されるのは ArcGIS Pro 3.6 からとなります。ArcGIS Pro 3.5 以前の環境では、JGD2024 として定義されたデータは地理座標系のデータ (具体的には WGS1984) として扱われるものの、ご利用になるマップの投影法によっては変換パラメーターを適用しなければ想定したデータの重ね合わせが行われない場合があります。

例えば、JGD2011 や TokyoDatum などの地理座標系のデータを平面直角座標系のマップに投影する際は、ArcGIS 上ではリアルタイム投影変換が行われ、ユーザーはデータの座標系を気にすることなく利用することができます。このリアルタイム投影機能を利用するためには、各座標系間を適切に投影するための変換パラメーターが必要になります。

ArcGIS Pro 3.5 以前の場合、マップ上に JGD2024 として定義されている本製品のデータを追加すると、初期値として JGD2024 が搭載されていないために次のような警告が表示されます。



この場合 JGD2024 のデータは世界測地系のデータと認識され、マップに投影されます。そのため、例えば本製品以外のレイヤーが参照するデータとして、世界測地系（日本測地系 2011、WGS 1984）を扱う場合にはこの警告は無視しても問題ありません。

データ自体に座標系が定義されていない場合、そのデータの座標値はマップの座標系に基づく座標値とみなされます。データとマップが同一の座標系である場合は正しい位置関係で重なりますが、異なる場合はより大きな問題として、顕著な位置ずれが生じます。そうしたデータとの重ね合わせを行いたい場合に、変換パラメーターを利用したリアルタイム投影が必要な場合があります。

ただし、ArcGIS Pro 3.5 以前の環境では、JGD2024 が存在しないため、各座標系間を適切に投影するための変換パラメーターを持ちません。しかしながら、ArcGIS では変換パラメーターを任意に設定することができるので、それを用いてマップ上で投影変換を行うことができます。

ArcGIS Pro 3.5 以前の環境で JGD2024 のデータをリアルタイム投影するために必要な変換パラメーターの設定方法については、ArcGIS ブログ「ArcGIS における「日本測地系 2024 (JGD2024)」への対応について」をご確認ください。

ブログ URL: <https://blog.esri.com/?p=64166/>

2. セットアップ方法

2.1. データをコピーする

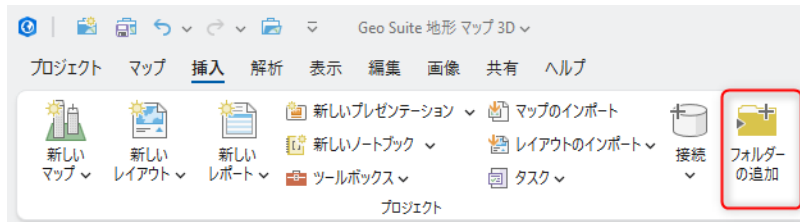
「DEM」フォルダー、「HILLSHADE」フォルダー、「等高線」フォルダー、「海底地形」フォルダーをフォルダごとローカルのハードディスクにコピーします。4つのフォルダーをコピーするには、約 59 GB の容量が必要です。事前に空き容量を確保してください。

3. ご利用方法

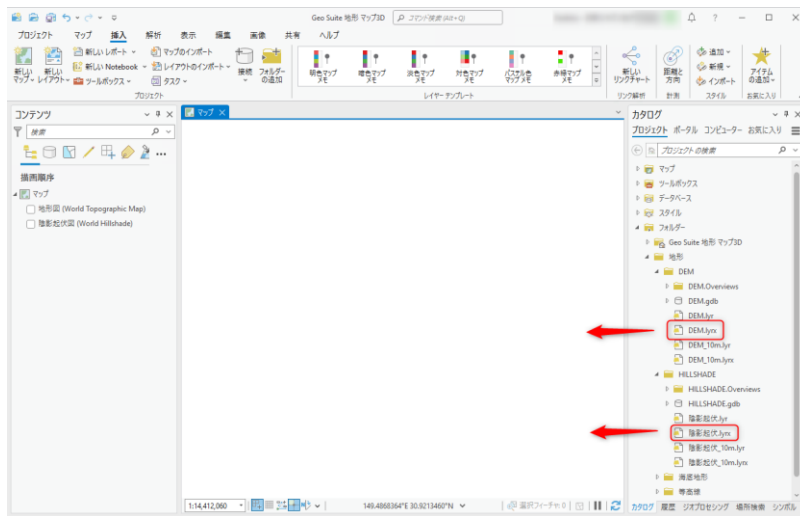
3.1. レイヤー ファイル (.lyrx) を使用する

「DEM」フォルダー、「陰影起伏」フォルダー、「等高線フォルダー」、「海底地形フォルダー」にはそれぞれレイヤーファイルを収録しています。各レイヤーファイルの内容については、データ基本仕様書をご確認ください。本ドキュメントでは、「DEM」フォルダー、「HILLSHADE」フォルダーに含まれている「DEM.lyrx」と「陰影起伏.lyrx」を ArcGIS Pro のマップに追加する例を記します。

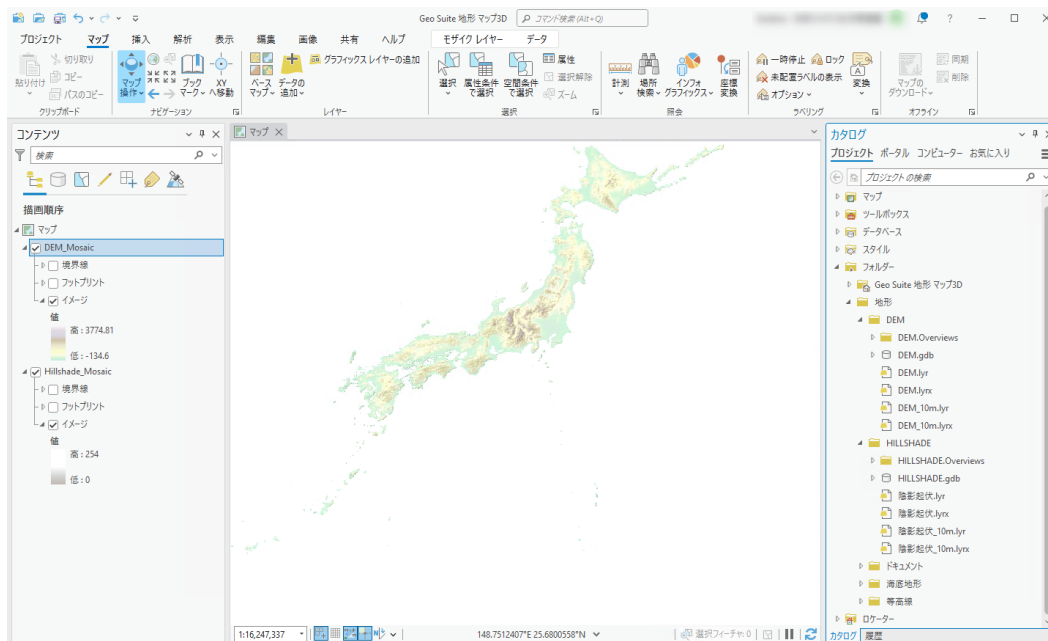
1. ArcGIS Pro を起動後、レイヤー ファイルを追加するマップを開き、[挿入] タブ → [フォルダーの追加] で、ローカルのハードディスクにコピーした「DEM」フォルダーおよび「HILLSHADE」フォルダーを追加します。



2. 「DEM」フォルダーおよび「HILLSHADE」フォルダー内の「DEM.lyrx」と「陰影起伏.lyrx」をカタログ ウィンドウより、マップ上にドラッグ&ドロップ（もしくは、右クリック → [現在のマップに追加]）で追加します。



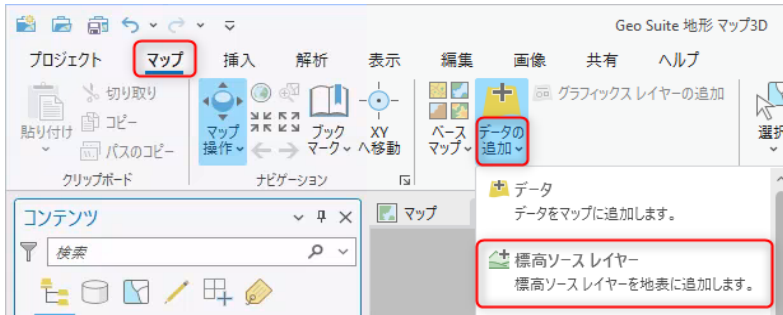
マップ上に「DEM.lyrx」と「陰影起伏.lyrx」がレイヤーとして追加されます。



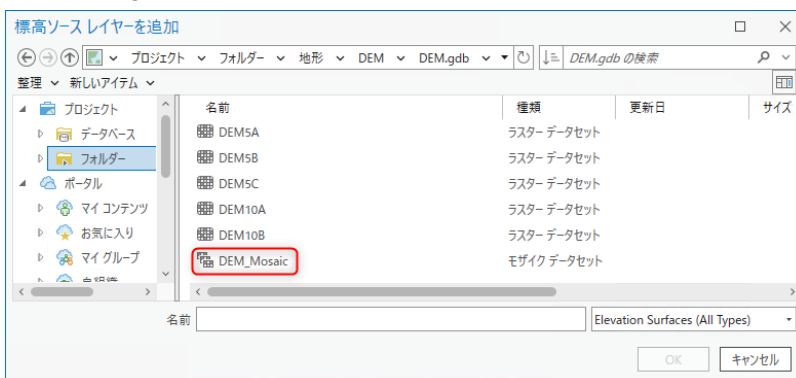
3.2. DEM データを標高サーフェスに設定する

本製品の DEM データ（「DEM_Mosaic」、「DEM10A」、「DEM10B」、「DEM5A」、「DEM5B」、「DEM5C」）を標高サーフェスに設定すると、ArcGIS Pro 上で地表面を 3D 表示できます。本ドキュメントでは、マップを 3D ローカル シーンに切り替え、「DEM_Mosaic」を標高サーフェスに設定する方法をご説明します。マップには「3.1 レイヤー ファイルを使用する」で「DEM.lyrx」が追加された状態であると仮定します。

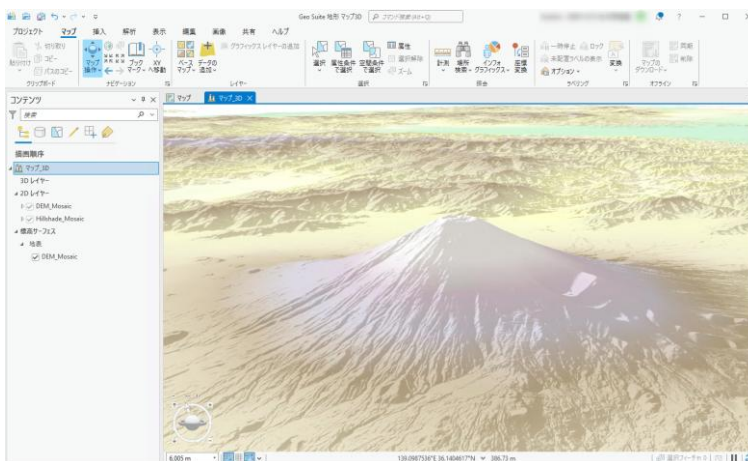
1. [表示] タブ → [変換] → [ローカル シーンに変換] で 3D シーンに切り替えます。
2. [マップ] タブ → [データの追加] → [標高ソース レイヤー] を選択します。



3. 「DEM.gdb」内の「DEM_Mosaic」を選択します。



[コンテンツ] ウィンドウの [標高サーフェス] → [地表] に「DEM_Mosaic」が追加され、地表面が 3D 表示されます。



ESRIジャパン データコンテンツ ArcGIS Geo Suite 地形 2026
クイックスタートガイド

発行日 : 2025 年 12 月 初版

発行元 : ESRIジャパン株式会社

<https://www.esrij.com/>

本書の内容に関して、予告なしに変更されることがあります。

本書の一部または全部の無断記載・複製を禁止します。